

ドクター本多のコラム No16

今年のNHK大河ドラマは、これまでの一般常識を覆す「本能寺の謎」に迫る作品となるようです！

明智光秀と言えば、日本人なら誰でも忌避したくなる人物と感じていると思います。私はこの一般説にずっと疑問を持っていました。やっと気の合う大河が観られると期待しています。私がネタを提供したわけではないので、どう語ろうとネタバレには当てはまらないので持論を書きます！ドラマ鑑賞のお役にたてば、と思います。

私はその持論に至ったのは、確か90年代に発見された、天皇の秘書官だった勸修寺春豊（かじゅうじ はるとよ）の日記が、信長研究者の間に激震を走らせた時からです。これを上手に小説仕立てにしたのが、岳宏一郎氏の同盟「天正十年夏之記」です。

簡単に言ってしまうと信長の敵は意外な所にいたかもしれない、というヒントです。

明智光秀は、人格・知性・優しさ・戦上手・庶民農民への篤い政治など、褒められてこそどこにも非難に値する人物像など現れてきません。

光秀は、「民の豊かさが国を守る」という純保守リベラルな思想家で、従来の朝廷と幕府の二重支配構造を復元し、大きな政府互助共生のための階級社会を願っていました。一方、軍隊を預ければ野戦に強く、鉄砲の扱いに習熟していたなど、信長の好む姿武将でした。そのため不幸にも旧権威を否定し、独裁奪取、革命革新、旧体制の破壊、領民の大量虐殺も厭わないという、光秀とは正反対の思想家である信長に愛されてしまったのです。

知恵は立つが無学な秀吉と、一流の高学歴である光秀を、信長は二枚岩で上手に使いました。本能寺は陰謀でもなんでもなく突発的に起こり、これが歴史の偶然であり「たられば」は禁句ですが、秀吉のお陰で日本の近代化は400年遅れたと思います。このあたりは反論も多かろうと思うところですが。

「歴史は勝者が作る」と言います。信長と光秀の不和は、ほとんどが秀吉の作ったフェイクニュースと言えるでしょう。それを可能にしたのはもっと大きな力を持った背後の権力ですが、それは追々描かれるのでしょうか？令和の今は無理かもしれませんね。NHKの腕前が試されます。